民報
あばしり
NO.1309
3月21日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
℡四三－四四五八
F四三－四四五七

令和３年度予算案　最終処分場（埋め立て地）の延命のため

紙おむつを大空町焼却処理施設に搬送

網走市議会は今、予算案審議の大詰めを迎えています。市はごみの最終処分施設（埋め立て地）の延命を図るとして、３５００万円の予算を計上しています。

その理由に

・生ごみの中に、埋め立てゴミが混入して堆肥化が計画通りに進んでいない

・埋め立てごみのうち、３分の１が資源物や生ごみである

・紙おむつが計画より増加（高齢化、ペット用品）

を挙げています。

対策として市は、①生ごみ処理のラインの増設②市民への分別徹底の啓発③紙おむつの中間処理をするとし、大空町焼却施設での焼却処理を打ち出しました。

しかし、市民の中から「紙おむつの焼却（中間処理）でいいのか？」と疑問の声が上がっています。そもそも水谷市長も『市政執行について』で「地球温暖化対策の啓発」を呼び掛けています。

「網走市環境基本計画」基本目標４・地域を活かした循環型社会の構築では、『徹底したごみの分別』で埋立の縮減を掲げています。

紙おむつの再利用

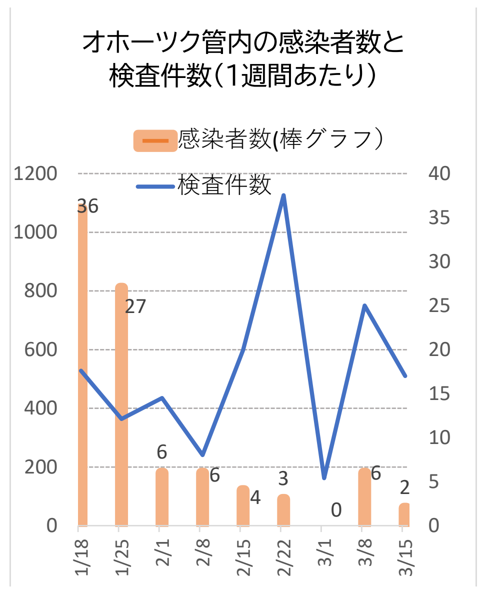
環境省は令和２年３月「使用済み紙おむつの再生利用等に関するガイドラインについて」を出し、増え続けている紙おむつの再利用を進めるため①ガイドラインの普及②市町村への支援③導入のコンサルティング④再生利用等に関する調査を進めるとしています。

調査研究が急がれます。

生ごみの袋の中に、埋め立てごみの混入が指摘されていますが、「埋め立てごみ袋の料金が高すぎる」事が原因だと指摘する市民もいます。市民生活を守る視点も含め、ごみ問題（紙おむつ焼却）を地球温暖化対策の視点で、しっかり考えることが必要ではないでしょうか。

コロナ感染情報　１週間の感染者は少ない状況です。

市が行っている抗原検査は高齢者施設などで始まっていますが、11日時点で２８０件となっています。検査件数の拡大が必要です。



松浦さとし奮戦メモ

長かった３月議会（第１回定例会）も議案の審査は17日で終了しました。

３月議会は、いつも疲れがたまりパソコンとにらめっこをする時間が長いため背中が張って苦しいのと疲れがとれないのが、とても辛いです。来月の中旬には68歳になるのですが、そのせいなのでしょうか。今回の議会で一番つらかったのは、資料を読むにも手元が見えなくてルーペをかけなくては質問準備ができなかったことです。

それでも何とか無事に審査は終了しました。18日は特別委員会としての取りまとめ、22日は本会議を開き特別委員会の委員長から報告があり、反対・賛成の討論を行って採決することになります。今回の予算審査は、私が経験した24年間の中で、議案に対する議論がこれほど白熱した議会はなかったと感じています。その意味では、議会らしい議論がなされるようになってきたということではないでしょうか。これからも議員としての役割を果たすために頑張ります。

村ちゃんが駆ける

給食調理の民間委託を前提とした調理場の集約案について、16日審査が行われました。

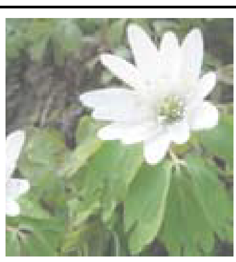
「保護者への説明会の参加者は少なく、市民が行ったアンケートでは９割が委託に反対している、議論が足りない。このままで良いのか」とただしました。教育委員会は説明会を何度も開き説明してきたと言い、かたくなな答弁でした。しかし、市民の理解は得られたでしょうか。「安定した給食の提供のため」という言葉で片づけてしまうのは、網走の財産を失うことになります。

市役所は市民の建設的な意見を聞くこと、一緒に考えること「協働」が大事だと思います。市民と一緒に街をつくっていくにはどうしたら良いのか。私にできることは様々な意見を聞きそれを議会で発言することです。

大人が子ども達を大切にする、子ども達が給食の匂いを感じられる学校を続けられる様に、みんなで考えましょう！

流氷

３月、雪解けが進み春の兆しがうれしい季節です。早春の落葉広葉樹林では、満を持して芽を出し花を咲かせ実を結ぶ早春季植物の一群があります。イチリンソウ、アズマイチゲ、キクザキイチゲ、カタクリ、アマナ、エンゴサクなどです。これらの花々は、雪解けから３～４週間の間に地上の生活を終えます。降り注ぐ春の日差しを覆い隠す広葉樹が葉を広げる前の隙間を狙って地上部で開花させます。実を結ぶと地上部は枯れて次の春までリター（厚い落ち葉や枝の層）の中で、根や芽の形で過ごします。▼この早春季植物群をスプリング・エフェメラル（spring ephemeral）《カゲロウのようにはかない春の花》と呼びなします。せっかく作ったタネは、風に頼んで広げてもらうのでなく、春になると活動するアリを頼りに広げてもらいます。タネの本体にエライオゾーム（種子に付着している柔らかい物質、脂肪酸・アミノ酸・糖からなる）という好物を着け巣まで運ばせ、好物を食べた後外に捨てます。こうしてタネは、広がります。▼このような広げ方を「アリ散布植物」といいます。約２００種ほどが知られているそうです。



博物館友の会会員　小　森